

平成26年度愛知県環境部主要予算概要

持続可能な開発のための教育（ESD）に関する ユネスコ世界会議が開催されます

予算額 289,350千円

ユネスコ及び日本政府の主催で開催される「ESDに関するユネスコ世界会議」の会議支援及び関連事業等を実施します。

1 開催支援費負担金 245,664千円

世界会議の成功に向け、「ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会」において、会議支援や、あいち・なごやの魅力発信、ESDの普及啓発・取組促進を進めます。

- 開催半年前イベント 平成26年5月 県内3地域
- 世界会議併催イベント 平成26年11月 名古屋市内

2 県事業費 21,336千円

県全体で、ESDの取組を促進するため、市町村におけるESDの取組を広く発信し、多様な主体と交流する市町村ESDシンポジウム等を実施します。

- 市町村ESDシンポジウム 平成26年夏頃 名古屋市内

3 子ども会議開催費負担金 22,350千円

県内の子どもたちが中心となり、持続可能な社会づくりに向け、何をすべきかを学び、話し合い、その成果を提言としてまとめて発信する「子ども会議」を開催します。

- 子ども会議 平成26年11月 名古屋市内
- 子ども会議ポストフォーラム 平成27年2月頃 県内

持続可能な開発のための教育（ESD） に関するユネスコ世界会議の概要

- ・ 主催 ユネスコ、日本政府
- ・ 開催期間 平成26年11月10日～12日
（閣僚級会合、全体会合等）
平成26年11月13日
（フォローアップ会合）
- ・ 開催場所 名古屋国際会議場
- ・ 参加規模 国内外の閣僚、政府関係者など
約1,000人を含む数千人規模を
想定



ESDに関するユネスコ世界会議について

1 会議の概要

- (1) 名称：持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議
- (2) 主催：国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）、日本政府
- (3) 開催期間：平成 26（2014）年 11 月 10 日～12 日 閣僚級会合、全体会合など
11 月 13 日 フォローアップ会合

- (4) 会場：名古屋国際会議場



- (5) 参加規模：国内外の閣僚、政府関係者など約 1,000 人を含む数千人規模の参加を想定（2014 年 1 月現在、ユネスコ加盟国は 195 カ国。）
- (6) 内容：「国連 ESD の 10 年（2005 年～2014 年）」の活動を振り返るとともに、2014 年以降の方策を議論する。

2 地元としての開催意義

本県には、平成 17（2005）年の愛知万博、平成 22（2010）年の生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）の開催を通じて、「持続可能な社会」の大切さに対する県民の高い意識が根付いています。世界会議の開催を契機に、この意識をさらに高め、未来を支える人づくりを通じて、「環境首都あいち」の実現につなげていきます。

併せて、万博や COP10 で培った地域の力を結集して世界会議を成功に導くとともに、当地の持続可能な社会づくりに向けた取組を内外に広く発信し、多くの人々や企業を本県に引き付けることで、本県のさらなる飛躍・発展につなげていきます。

3 地元の役割

世界会議の成功に寄与し、未来を支える人づくりを進めることで「持続可能な社会づくり」に貢献していくため、「会議支援」、「あいち・なごやの魅力発信」、「ESD の普及啓発」、「ESD の取組促進」の 4 本柱で、世界会議の支援を推進します。

(1) 会議支援

主催者と連携しながら、世界会議が安全・安心で、円滑かつ快適に行われるよう、関係機関などとの連携・協力のもと支援を行う。

- ア 安全・安心の確保（警備協力、救急対応 等）
- イ 円滑な会議運営（宿泊支援 等）
- ウ 快適なサービスの提供（輸送支援、交通案内 等）

(2) あいち・なごやの魅力発信

会議を契機として、地域の多様な魅力を世界の人々に体感していただくとともに、国内外に向けて積極的に発信する。

- ア おもてなし（公式歓迎行事、歓迎装飾、ボランティア、エクスカーション 等）
- イ 地元情報の提供（地元ガイドブックの配布 等）

(3) ESD の普及啓発

キャッチフレーズやロゴマークを活用した普及啓発、イベントの開催などにより、ESD に対する理解の浸透と、開催機運の醸成を図る。（開催半年前イベントの開催（5-6 月）、展示会への出展などによる開催機運の盛り上げ 等）

(4) ESD の取組促進

会議を契機として、NPO、教育関係者、企業、行政など、地域の多様な主体と連携しながら、持続可能な社会づくりに向けた取組をさらに進める。

4 平成26年度の取組

(1) ESDの普及啓発

ア 開催半年前イベントの実施

参加・体験・交流しながらESDについて楽しく理解していただくイベントを県内3か所で開催します。

5月11日(日) 愛・地球博記念公園

5月17日(土) 穂の国とよはし 芸術劇場プラット

6月7日(土)、8日(日) オアシス21 銀河の広場



〔開催1年前イベントの様子
平成25年9月〕

イ PR隊の派遣

多くの県民にESDと世界会議について理解していただき、世界会議の開催機運を盛り上げるためのPR隊を組織し県内全域でPR活動を実施します。

(2) ESDの取組促進

ア ESDあいち・なごやパートナーシップ事業

世界会議のPRやESDの普及促進に支援実行委員会と一緒に取り組み、会議を盛り上げていただく事業・イベントを登録します。

(平成26年3月31日現在 320件)



〔環境ボランティアサークル
亀の子隊のきれいな海を守る心を広げるための事業〕

イ 市町村ESDシンポジウムの開催

県全体でESDの取組を促進するため、市町村におけるESDの取組を広く発信し、多様な主体と交流するシンポジウムを開催します。

(8月1日(土) ウインクあいち)

ウ あいち・なごやのESD交流・発信の場 (併催イベント)

世界会議の開催に併せ、様々な分野で活動する団体が集い、交流し、発信する場を設けます。(11月 栄地区・白鳥地区)

エ 子ども会議

県内の子どもたちが中心となり、持続可能な社会づくりについて学び、話し合い、その結果を発信する「子ども会議」を開催します。



〔ESD子どもフォーラム
平成25年12月〕

オ ユネスコスクールの加盟促進

ESDの推進拠点であるユネスコスクールの加盟促進を通じてESDの取組内容の充実を図ります。

＜加盟校数の推移＞

2校 (開催決定時) → 57校 (平成26年3月31日現在)

5 ESDユネスコ世界会議に向けたスケジュール

区分	平成26(2014)年度								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
会議支援	ユネスコ、日本政府、関係機関等との連絡・調整								ESDユネスコ世界会議の開催 安全・安心の確保 円滑な会議運営 快適なサービスの提供
	体制構築・実施準備 (警備協力、救急対応、宿泊支援、輸送支援等)								
あいち・なごやの魅力発信	関係機関等との連絡調整・実施準備 (歓迎行事、歓迎装飾、ボランティア、エクスカージョン等)								おもてなし 地元情報の提供
普及啓発 取組促進	＜ESDイヤー(2014年1月～11月)＞								併催イベントの開催 (栄地区・白鳥地区)
	庁内連携、市町村連携等によるPRの推進								
	◆開催半年前 イベント(5-6月) PR隊の派遣								
	展示会への出展などによる開催機運の盛り上げ								
子ども会議	パートナーシップ事業による多様な主体との連携 (県、市町村、学校、大学、NPO、企業等) ◆市町村ESDシン ポジウム(8月)								子ども会議 (エクスカージョン、グループ討議、提言発表)
	開催準備								

※ 5月12日(月)、13日(火)に市町村連絡会議開催予定

県民のエコアクション（環境配慮行動）を促進します

予算額 13,361千円（新規）

愛知万博やCOP10で培われてきた県民の皆様の環境意識の高さを生かし、平成26年11月に開催される「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」を契機として、県民一人ひとりの省資源・省エネといった環境への負荷を減らすエコアクション（環境配慮行動）を促進します。

1 キックオフイベント開催費 8,824千円

エコアクションのきっかけづくりとするため、平成27年1月に名古屋市内で県民参加型のイベントを開催します。

2 ネットワーク形成事業費 4,537千円

・ AELネットを活用したエコアクションの促進

120施設を目標にAEL（あえる）ネット※施設を拡充するとともに、各施設が連携して環境学習スタンプラリー講座を実施するなど、様々な環境学習の機会を提供します。

・ あいちエコアクションウェブサイト（仮称）の開設 【緊急雇用創出事業基金を活用】

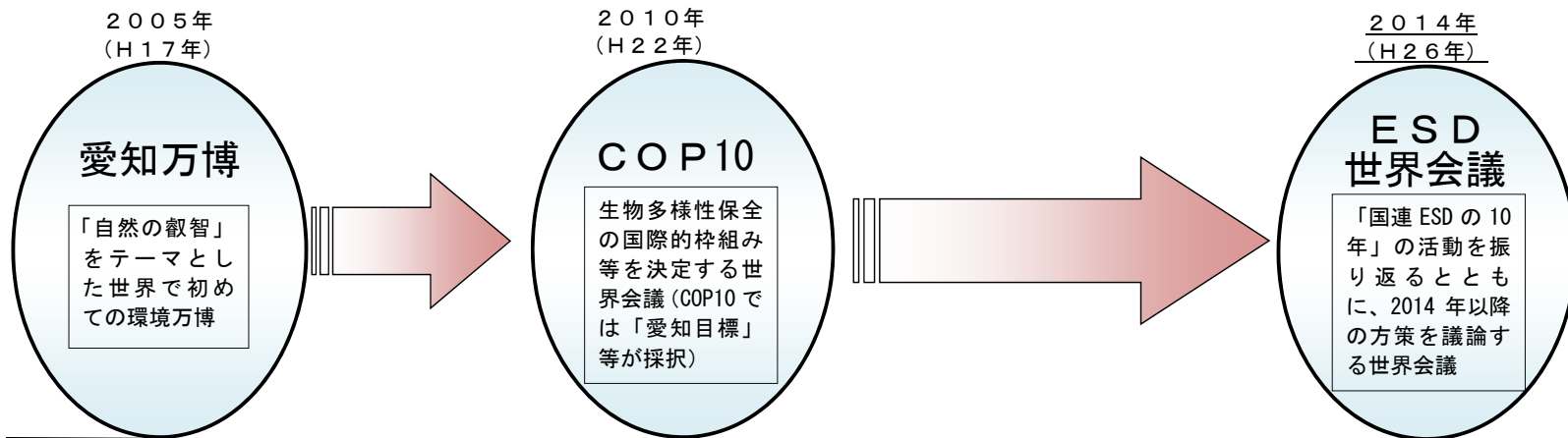
いつでもどこでも、アクセスできるウェブサイトを開設し、企業やNPO等が行っている環境活動の情報をネットワーク化することで、県民・団体等が交流を深めることができるようにします。



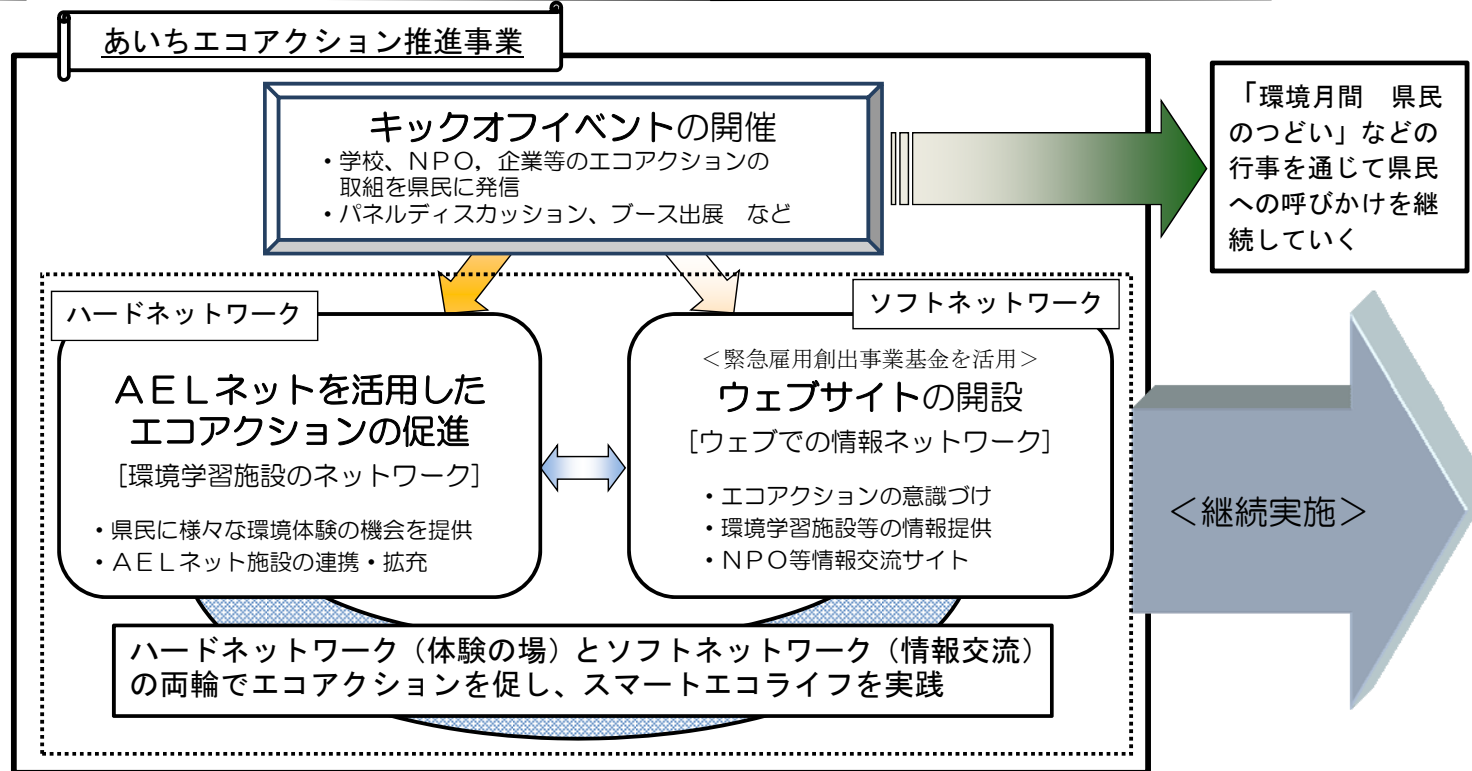
※AELネットとは

愛知県環境学習施設等連絡協議会(Aichi Environmental Learning Network)の愛称。県内の環境学習施設等が協力して、地域における環境学習の推進を図るために、平成20年3月に設置し、平成25年11月末現在で58施設が加盟。

あいちエコアクション推進事業



- ◆ 県民等の環境意識の高まり
- ◆ NPO、市民団体等の環境への取組が活発化
- ◆ 生物多様性の重要性を身近な問題として新たに県民等が認識
- ◆ 県民、NPO、企業による生物多様性をはじめとした環境保全に関する取組が一層拡大
- ◆ 持続可能な社会づくりの大切さ、そのために学ぶことの大切さ、次の世代に受け継ぐことの大切さを理解し、自ら行動することを呼びかけていく



※AEL (あえる) ネット
 愛知県環境学習施設等連絡協議会 (Aichi Environmental Learning Network) の愛称。県内の環境学習施設が協力して、地域における環境学習の推進を図るために平成 20 年 3 月に設置。
 <環境学習施設例>
 ・もりの学舎 (長久手市)
 ・エコバルなごや (名古屋市)
 ・トヨタの森・エコの森ハウス (豊田市)
 ・東邦ガス ガスエネルギー館 (東海市)
 など 58 施設加盟 (平成 25 年 11 月末現在)

県民みんながスマートエコライフを実践する環境首都あいち